

東三河振興ビジョン

【主要プロジェクト推進プラン】

～ 世界・全国レベルのスポーツ大会等を活かした地域連携 ～

東三河ビジョン協議会

平成30年3月

目次

I	「主要プロジェクト推進プラン」の策定方針	1
1	テーマの設定	1
2	位置づけ	1
3	策定主体	1
4	計画期間	1
II	東三河の現状と課題	2
1	はじめに	2
(1)	国の状況	2
(2)	県の状況	2
(3)	東三河振興ビジョンによるこれまでの取組	2
2	東三河で開催される世界・全国レベルのスポーツ大会等の現状	4
(1)	三遠ネオフェニックス	4
(2)	セーリング世界大会	6
(3)	新城ラリー	7
(4)	奥三河パワートレイル	8
(5)	サーフィン世界大会、全日本級別選手権大会	9
3	スポーツに対する住民意識	10
4	課題	12
III	取組体系及び目標	13
1	取組体系（2つの方針と5つの主な取組）	13
2	目標	14
IV	主な取組内容	15
1	世界・全国レベルのスポーツ大会等を活かして地域をもっと盛り上げる	15
(1)	絆を深める	15
(2)	裾野を広げる	17
(3)	快適な環境をつくる	17
2	「極上のスポーツフィールド・東三河」のイメージを拡散する	18
(1)	豊かなスポーツ環境を活かしたスポーツツーリズムの推進	18
(2)	情報拡散に向けた仕掛け	18
V	推進体制等について	19
1	推進体制	19
2	推進プランの進捗状況の把握及び見直しについて	19
VI	平成29年度先導事業	19
1	東三河スポーツツーリズム検討事業	20
VII	参考資料	21

I 「主要プロジェクト推進プラン」の策定方針

1 テーマの設定

「主要プロジェクト推進プラン」(以下「推進プラン」という。)は、「将来ビジョン」に位置づけた重点的な施策を具体化し、着実に推進していくために策定するもので、平成 29 年度は、「将来ビジョン」に掲げた 7 つの重点的な施策の方向性の中から、戦略的に取り組むべきテーマとして『人が輝き活躍する東三河』の実現」と「世界・全国レベルのスポーツ大会等を活かした地域連携」を設定した。

本冊は、このうち「世界・全国レベルのスポーツ大会等を活かした地域連携」についてとりまとめたものである。

2 位置づけ

県、市町村、東三河広域連合、各種競技団体、経済関係団体、観光関係団体、大学、民間事業者、NPO等が、共通目標のもと連携・協働して展開する実施計画

3 策定主体

東三河ビジョン協議会

(県、東三河の 8 市町村、東三河広域連合、経済関係団体、大学等で構成)

4 計画期間

平成 30 年度から平成 32 年度までの 3 年間

Ⅱ 東三河の現状と課題

1 はじめに

(1) 国の状況

- 平成 31 年のラグビーワールドカップ、平成 32 年の東京オリンピック・パラリンピックを控え、国はスポーツによる地域活性化の動きへの支援を進めている。
- 平成 29 年 3 月には、「**第 2 期スポーツ基本計画**」を策定。**スポーツ参画人口の拡大を目標に掲げ**、他分野との連携・協力により「**一億総スポーツ社会**」の実現に取り組むことを基本方針として提示した。
- また、今後 5 年間に総合的かつ計画的に取り組む施策の一つとして「**スポーツを通じた活力があり絆の強い社会の実現**」を掲げ、その中で「**スポーツを通じた経済・地域の活性化**」を進めることとしている。
- この計画の基本方針においては、スポーツを「する」ことで、スポーツの価値が最大限享受できるとしつつ、さらに、**スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことでみんながその価値を享受できる**という、スポーツの価値を従来よりも幅広く捉えた考え方が示されている。

(2) 県の状況

- 平成 25 年度を初年度とし、平成 34 年度までの 10 年間のスポーツ推進計画をまとめた「**愛知県スポーツ推進計画『いきいきあいち スポーツプラン』**」では、県民一人一人がそれぞれのライフステージや興味・関心等に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しみ、活力ある「**スポーツ愛知**」を実現するための基本的な方向性を示している。
- また、愛知県では、**地域振興の有力な手段としてスポーツ大会を活用**することとし、全国、世界に打ち出せるスポーツ大会を招致、育成し、地域活性化につなげる取組を行っている。
- 地域の関係者が連携して取組を進めるため、スポーツ大会や合宿を招致したり、育成したりすることにより、交流人口を増やすなど、地域活性化につながる取組を推進する組織として、**平成 27 年 4 月に「あいちスポーツコミッション」を設立**。自治体に加え、スポーツ関係団体、経済・観光団体、マスメディア、企業・NPO などが参画し、地域の関係者が一体となった取組を進めている。
- **2026 年秋のアジア競技大会開催**に向けた準備も着実に進められている。(競技種目・会場等については調整中)

(3) 東三河振興ビジョンによるこれまでの取組

- 東三河振興ビジョン（将来ビジョン）では「**重点的な施策の方向性**」を 7 つ掲げているが、このうち、「**東三河の魅力の創造・発信**」に向けた取組の一環として、**平成 27 年 3 月に主要プロジェクト推進プラン「スポーツ大会を活かした地域振興」（以下「26 プラン」という。）を策定**し、スポーツ大会を通じた地域の一体感や活力の醸成、経済的効果につなげる取組等を進めている。
- このプランの計画期間は平成 27 年度から平成 29 年度までであり、3 つの数値目標を設定して取組を進めている。第 2 年度である平成 28 年度終了時点では、新たなスポーツ大会の開催は既に数値目標を達成。スポーツ大会の参加者数、観客数も順調に増加している。

<表 1> 目標達成状況

項目	数値目標	計画当初	達成状況
目標 1 新たなスポーツ大会数	2 大会 (平成 29 年度)	未実施 (平成 26 年度)	3 大会 (平成 28 年度)
目標 2 スポーツ大会の参加者数	31 千人 (平成 29 年)	28 千人 (平成 26 年)	29 千人 (平成 28 年)
目標 3 スポーツ大会の観客数	133 千人 (平成 29 年)	127 千人 (平成 26 年)	133 千人 (平成 28 年)

- これまでの取組により、**世界・全国レベルのスポーツ大会を中心に、多くの競技者や観戦者が東三河を訪れる**ようになり、宿泊、飲食、地域製品の購入等につながっている。
- さらに、平成 28 年度から豊橋市が**プロバスケットボール B 1 リーグ三遠ネオフェニックスのホームタウン**となり、ホームゲームの大部分が東三河で開催されることとなった。身近に国内最高レベルのプロアスリートが活動し、熱心なブースター（ファン）も増えている。
- また、当地域では、**スポーツに関連した新たな動き**が様々出てきており、これらを活かした取組が期待できる。
 - ・アイスリンクの存在、オリンピック選手の輩出等を背景に、**アイスホッケーやフィギュアスケート**の活動が活発化し、競技水準が高くなってきている。
 - ・**フォレストアドベンチャー・新城**が、平成 30 年 3 月にオープンし、スポーツ意識の向上や他施設との相乗効果による集客拡大が期待されている。

世界・全国レベルのスポーツ大会とプロチーム（以下「スポーツ大会等」という。）

- ・三遠ネオフェニックス（豊橋市、豊川市）
- ・セーリング世界大会（蒲郡市）
- ・新城ラリー（新城市、県）
- ・奥三河パワートレイル（新城市、設楽町、東栄町、豊根村、県）
- ・サーフィン世界大会、全日本級別選手権大会（田原市）

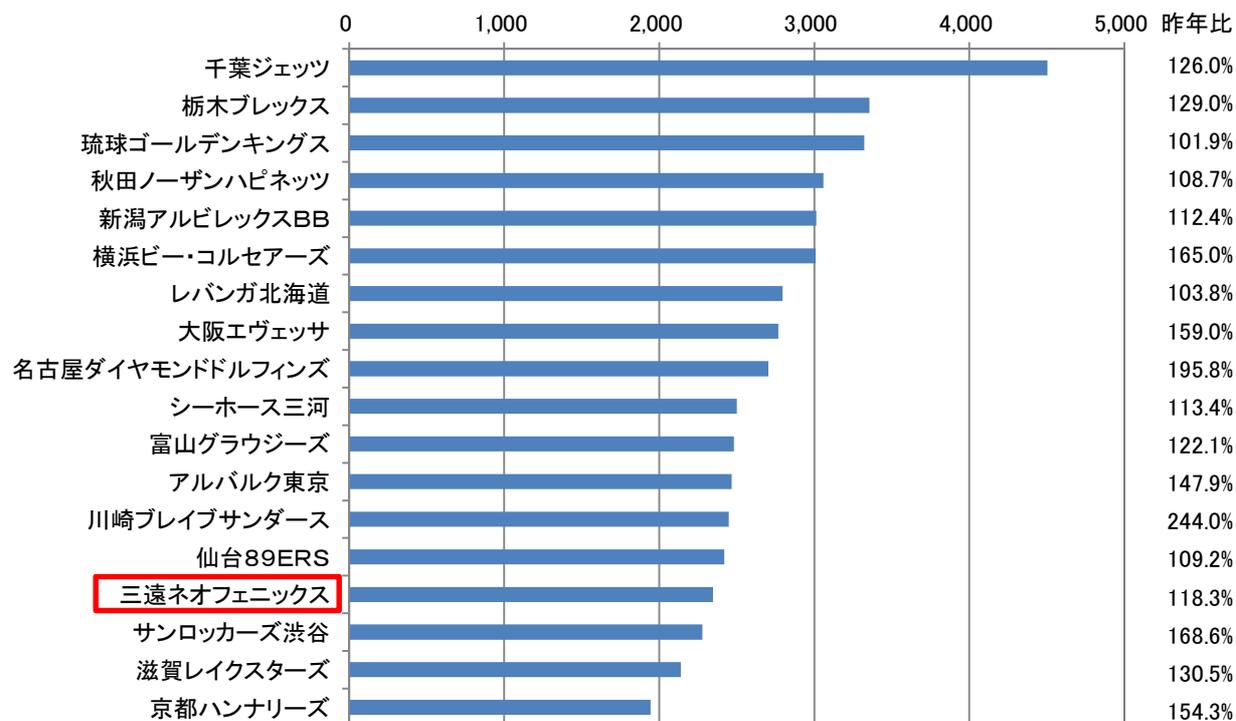
2 東三河で開催される世界・全国レベルのスポーツ大会等の現状

(1) 三遠ネオフェニックス

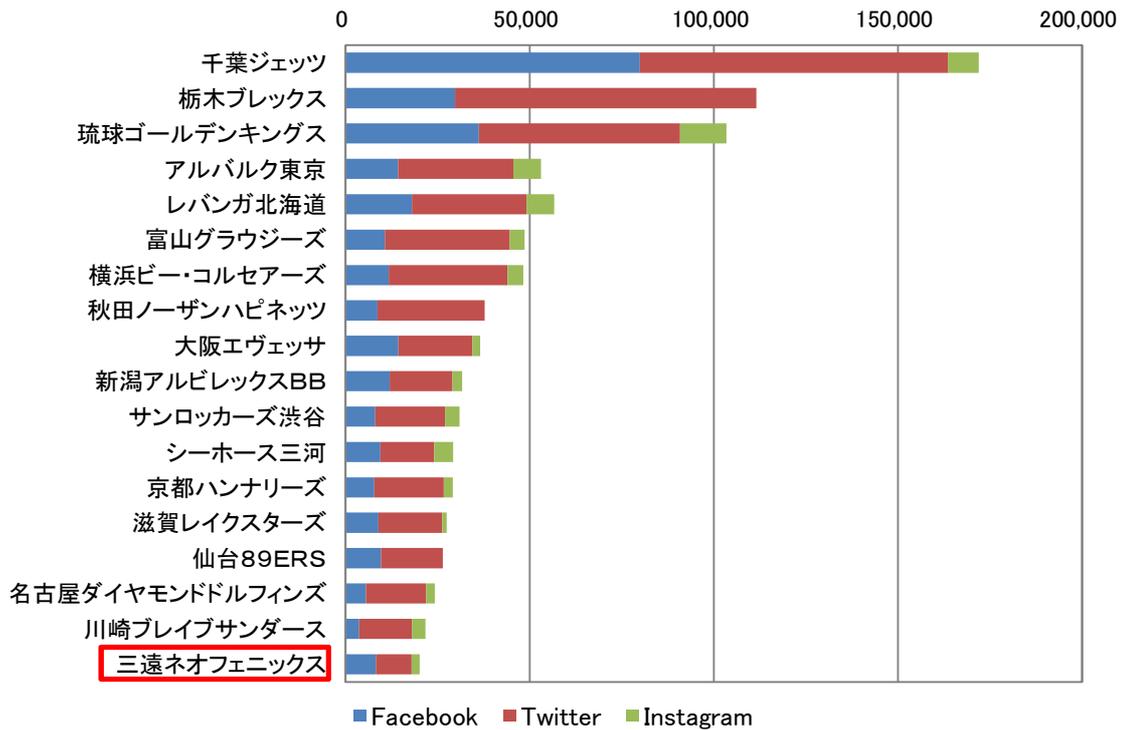
- 東三河唯一のプロスポーツチーム。
- 豊橋市総合体育館をホームアリーナとして、プロバスケットボールB1リーグ 60試合のレギュラーシーズンを戦う。(うちホームゲームは30試合)
- **2016-2017 シーズンは中地区*で2位となり、チャンピオンシップに進出する好成績を収めた。**
- 「三遠地域が笑顔で活力のある街に！」を活動理念に掲げ、以下のスローガンの下、地域イベントへの参加や小学校での選手出前講座など**地域貢献活動を実施。**
 - ① 三遠ネオフェニックスが地域の懸け橋となる。
 - ② プロスポーツクラブとしての誇りを持ち、人間力向上に努め、子どもたちの成長に貢献します。
 - ③ 三遠地域から、日本、アジア、そして世界へチャレンジします。
 - ④ 異空間を創り出し、魅せるアリーナへ
- 東三河地域の行政と連携し、経済活性化やスポーツ機会の増進・人づくりなどに取り組んでいる。
- 2016-17 シーズンのホームゲーム**平均観客動員数は 2,347 人**と前シーズンから18.3%増加したが、リーグ**18クラブ中第15位**。1位である千葉ジェッツの4,503人を大きく下回る。
- **SNSフォロワー数は 18クラブ中最下位**となっており、情報発信力の強化が動員力不足解消に向けた大きな課題となっている。

※ B1リーグは所属18クラブを東地区、中地区、西地区の3地区に分けている。

<図1> B1リーグ所属18クラブの平均観客動員数 (2016-17 シーズン)



<図2> B1リーグ所属18クラブのSNSフォロワー数（2016-17シーズン）



写真提供：三遠ネオフェニックス

～地元出身選手の活躍（太田敦也選手）～

- ・ 豊川市出身
- ・ 三遠ネオフェニックスの前身オーエスジーフェニックスに2007年に入団。2010年、2011年、2015年の浜松・東三河フェニックスのbjリーグ優勝に貢献。
- ・ 2017年10月21日には、通算500試合出場を達成。
- ・ 日本代表にも選出され、数々の国際大会に出場。
- ・ 今後も三遠ネオフェニックスの顔として活躍が期待される。



(2) セーリング世界大会

- 豊田自動織機海陽ヨットハーバーでは、愛知国体や岐阜国体の会場となった他、数多くの国内大会、国際大会が開催されている。
- 平成28年度から施設拡充に着手し、**クラブハウス・艇庫の増設、大屋根、浮桟橋、コンテナヤードの整備など、大規模な大会に対応可能な施設整備**を実施した。
- 平成29年度は、2つの国際大会が開催された。

【テザー級ヨット世界選手権大会】

- ・平成29年7月30日～8月6日まで蒲郡市で初開催。
- ・世界5カ国、97艇がエントリー。
- ・蒲郡市内の親子を招待した海上からのレース観戦や、ハーバー内での選手と親睦を深める「海と人とのふれあい交流事業」を実施。

【セーリングワールドカップ愛知・蒲郡大会】

- ・世界のトップセーラーが集い、年間4回開催され、ポイント合算で年間チャンピオンを決定する。
- ・平成29年10月15日～22日まで蒲郡市で日本初開催。
- ・オリンピックと同種目で開催され、オリンピックの出場に直結する重要な大会。
- ・世界38の国と地域から253人（186艇）がエントリー。
- ・日本人選手は、4種目で表彰台に上り、銀メダル3つ、銅メダル2つを獲得。
- ・地元小学生を招待したレース観戦などを実施。



～セーリングの普及に向けて～

- ・セーリングワールドカップ愛知・蒲郡大会では、4日間で482名の地元小学生がレースを間近で観戦した。
- ・レース観戦時には、蛭田香名子氏（元セーリングナショナルチーム選手）がルール、楽しみ方を解説した。
- ・10月17日(火)には、白石康次郎氏（海洋冒険家）が観戦艇に同乗し、ヨットの楽しさ、夢の大切さを伝えた。



(3) 新城ラリー

- 全日本ラリー選手権に位置付けられ、計測区間約 100 km。観戦者は 5 万人超と**国内最大級のラリーイベント**。
- 2013 年大会から「県営新城総合公園」をメイン会場として開催。
- 観戦エリアは「県営新城総合公園」のラリーパーク内を走行するスペシャルステージのほか、メイン会場から約 25 km 離れた「鬼久保ふれあい広場」にサテライト会場を設置。
- ファミリーやカップルで楽しめるステージイベントや奥三河のグルメが味わえる飲食ブースなど様々なイベントを開催。
- **年々規模が拡大**し、大きな盛り上がりを見せている。

<表 2> 観客数の推移

開催年	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年
観客数	48,000 人	51,000 人	53,000 人	54,000 人



(4) 奥三河パワートレイル

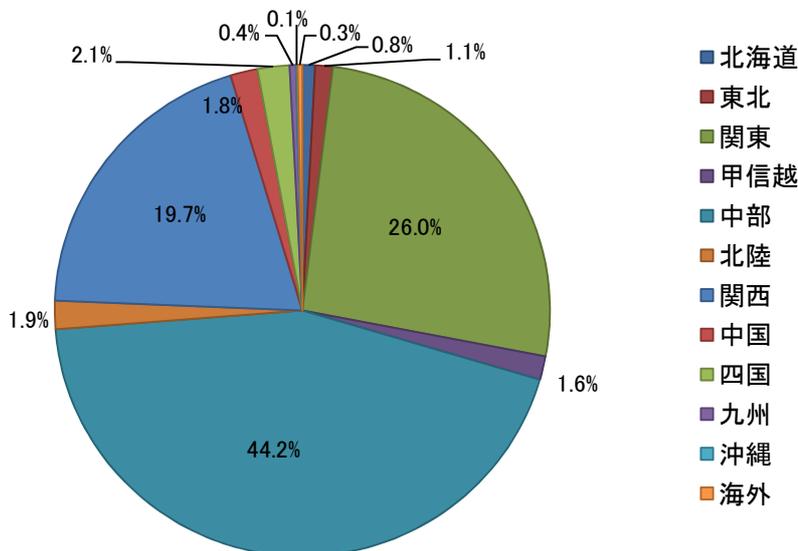
- **愛知県初**の本格的な中距離トレイルランニングレース。
- コースは、愛知県最高峰の茶臼山から湯谷温泉までの全長約 70km、累積標高約 4,000m。
- 地元住民を中心としたボランティアによるエイドステーションでは、地元産の食材を使った手作りの料理などを用意して選手をサポート。
- 全国各地から出走者が訪れ、**出走者数とともに観客数も増加**。厳しいコースと地元の温かいおもてなしが高く評価されており、奥三河を代表するスポーツ大会として定着しつつある。

<表3> 申込者数、出走者数等の推移

	第1回大会	第2回大会	第3回大会
申込者数	929人 (42都道府県)	911人 (38都道府県)	962人 (42都道府県、韓国)
出走者数	758人	780人	838人
完走者数	234人	475人	411人
完走率	30.8%	60.9%	49.0%
観衆者数※	約4千人 (主催者発表)	約7千人 (同)	約9千人 (同)



<図3> 出走者の地域別内訳 (第3回大会)



(5) サーフィン世界大会、全日本級別選手権大会

- 田原市の太平洋側は、一年を通じてサーフィンに適した波が打ち寄せる全国有数のサーフィンスポット。
- 毎年7月に開催される田原市長杯や、NSA全日本サーフィン選手権大会など、**数多くの全日本級の大会が開催。**
- ASP (Association of Surfing Professional) の主催する世界選手権であるWQS (World Qualifying Series) を始め、**国際大会の開催実績も多い。**
- ※ 2015年1月1日より、ASPは団体名をWSL(World Surf League)に変更。
- 平成30年度に開催される世界最高峰の国際サーフィン競技大会「**2018 ISAワールドサーフィンゲームス**」が田原市を会場として開催することが決定。

<表4>主な世界・全国レベルの大会開催実績

開催年	大会名	来場者数 (単位：人)
平成20年	6STAR ASP WQS	40,000
平成21年	ASP WLT	20,000
平成22年	サーフィnfestival in 田原	2,000
平成24年	4STAR ASP WQS	15,378
平成25年	4STAR ASP WQS	26,878
平成27年	第33回全日本級別サーフィン選手権	3,000
平成28年	第51回全日本サーフィン選手権大会	3,000
平成29年	JPSA ジャパンプロサーフィーツアー2017 ショートボード第3戦 夢屋サーフィンゲームス田原オープン	3,000

※天候等により中止となった大会は除いている。



3 スポーツに対する住民意識

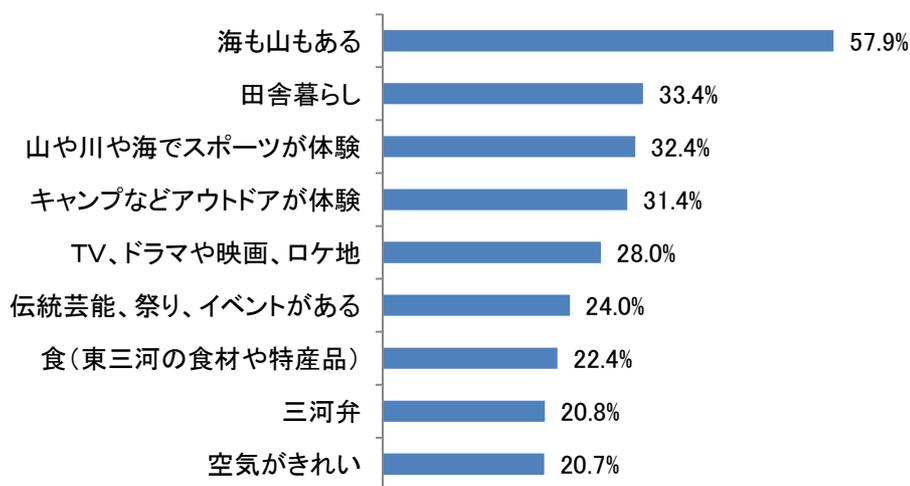
平成 29 年 8 月から 9 月にかけて、公益社団法人豊橋青年会議所が、東三河 8 市町村の住民を対象に「東三河住民意識調査」実施した。

回収された 6,870 件の回答から、スポーツに関する住民の意識を把握することができる。

「東三河の何を売り出したら注目が集まるとおもいますか。」との問いに対して、32.4%の人が「山や川や海でスポーツが体験」と答えている。

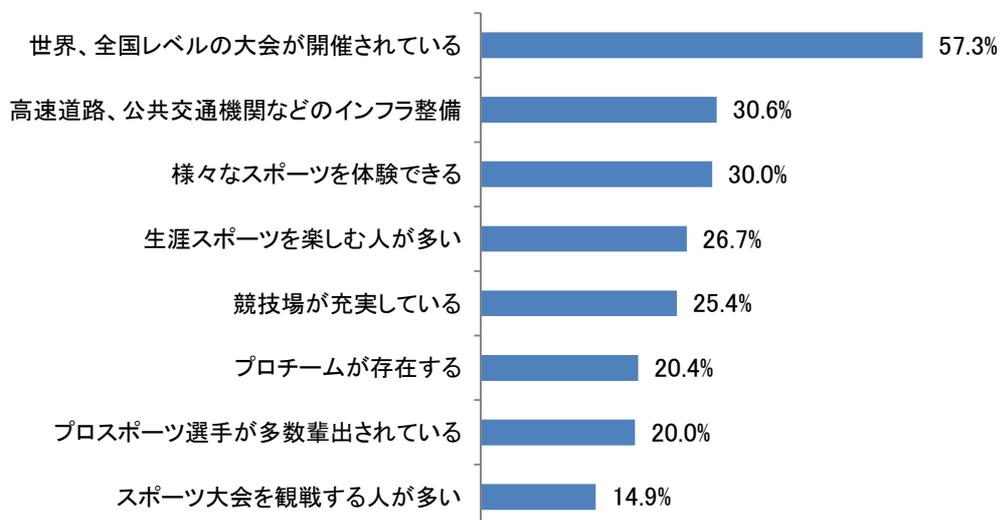
「伝統芸能、祭り、イベントがある」、「食（東三河の食材や特産品）」といった、従来、東三河のブランド戦略の取組において重視されている選択枝を選んだ人が 2 割程度であることを考えると、**スポーツが楽しめる自然環境を重要な東三河のセールスポイントの一つとして認識している人は多い。**

＜図 4＞東三河の何を売り出したら注目が集まるとおもいますか



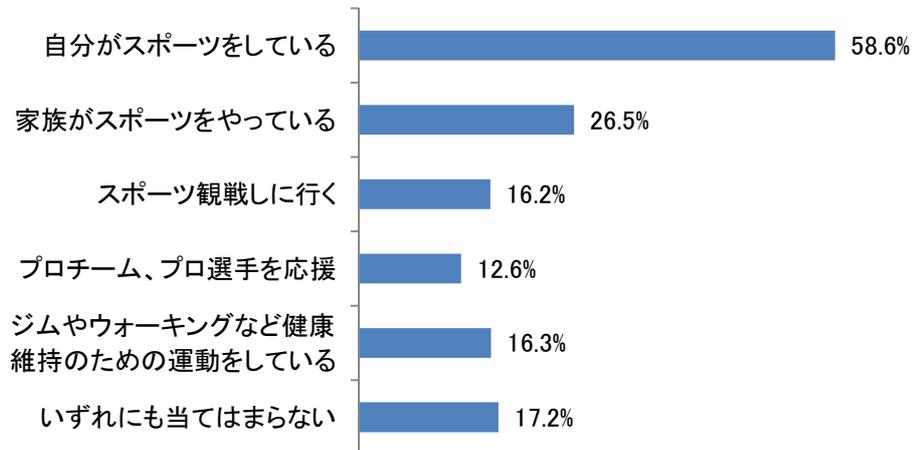
「スポーツで地域を活性化するには何が必要か」との問いに対しては、世界・全国レベルの大会が開催されている」と答えた人が 57.3%と非常に多く、**高いレベルのスポーツ大会の開催に対しては、多くの人が関心を持っている**ことがうかがえる。

＜図 5＞スポーツで地域を活性化するには、何が必要だと思えますか



一方、「現在スポーツにたずさわっていますか。」との問いに対しては、「自分がスポーツをしている」と答えた人が 58.6%、「家族がスポーツをやっている」と答えた人が 26.5%と多かったのに対し、「スポーツ観戦しに行く」と答えた人は 16.2%と、**実際に観戦に足を運ぶ人は少ない**ことがわかる。

＜図6＞現在スポーツにたずさわっていますか



4 課題

スポーツを通じた地域振興を加速化するためには、次のような課題がある。

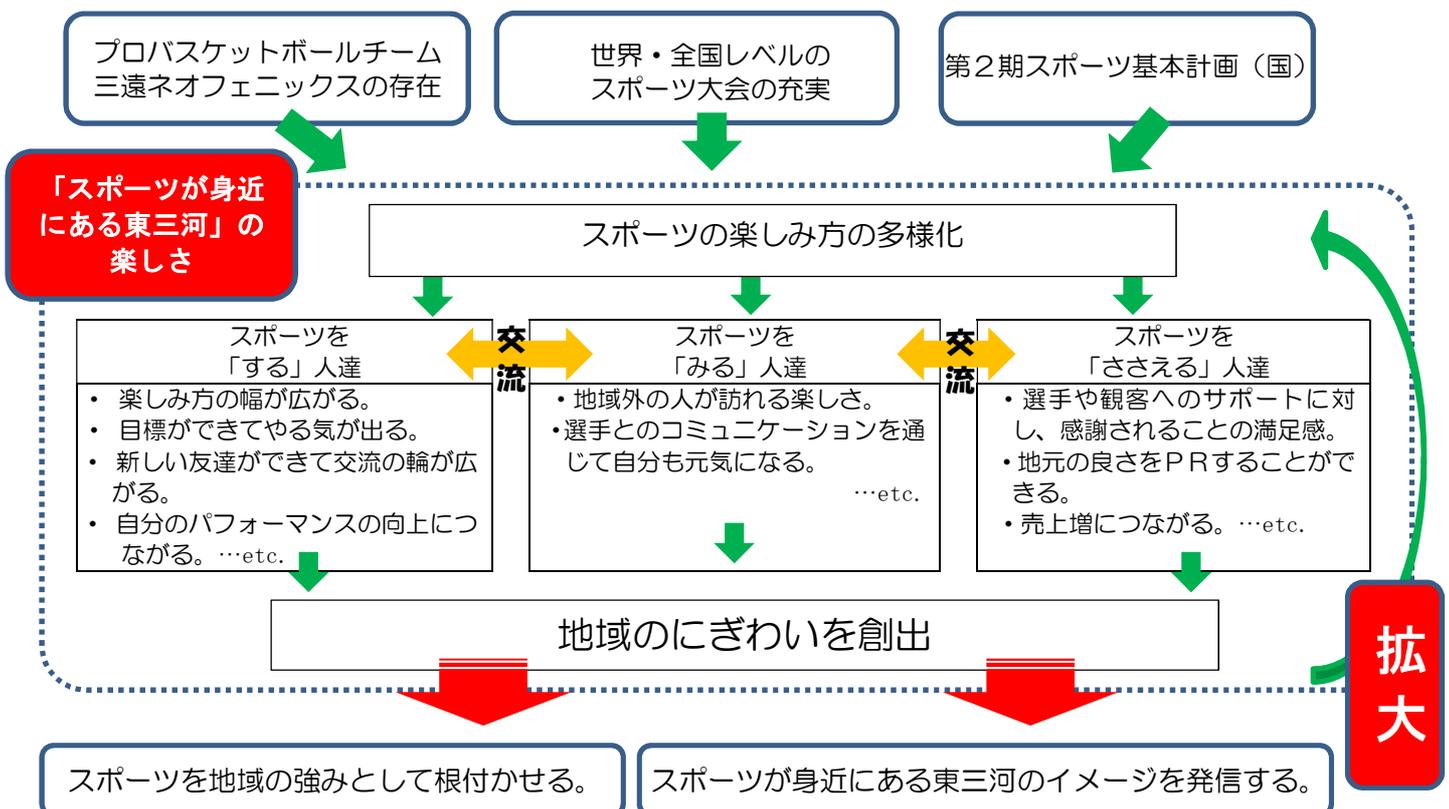
課題1 スポーツを地域の強みとして根付かせる。

- 世界・全国レベルのスポーツ大会等が増加したことにより、スポーツの楽しみ方が多様化している。スポーツを「する」楽しみに加え、スポーツを「みる」ことで楽しむ人達や、「ささえる」ことで楽しむ人達も増加し、交流も生まれつつある。
- この地域唯一のプロスポーツチーム三遠ネオフェニックスは、観客動員の増に向けた取組とあわせて、地域活性化のため主体的に社会貢献活動やスポーツの普及・振興に取り組んでおり、様々な場面で東三河の産学官との連携が期待できる。
- 世界・全国レベルのスポーツ大会やプロチームは、さらなる地域振興の起爆剤となり得るコンテンツであると言える。
- そこで、これらのコンテンツを中心に、住民が様々な形でスポーツを楽しむ機会の創出、地域内外と交流する機会の提供、新たな産業の創出などに取り組むことにより、スポーツを地域の強みとして根付かせる必要がある。

課題2 スポーツが身近にある東三河のイメージを発信する。

- 東三河は、奥三河や三河湾の豊かな自然環境に恵まれ、特色あるスポーツ大会が数多く開催される等、スポーツを楽しみながら暮らせる地域であり、セールスポイントとして意識している住民も多い。しかしながら、そうした地域の魅力は、まだ地域全体に十分浸透しているとはいえない。
- スポーツイベントの展開と連動しながら、地域が連携して東三河の魅力や暮らしやすさを発信する必要がある。

<図7>スポーツ大会等を巡る好循環



Ⅲ 取組体系及び目標

1 取組体系（2つの方針と5つの主な取組）

スポーツを通じた地域連携を推進する取組を次のとおり整理した。

〔2つの方針と5の主な取組〕

1 世界・全国レベルのスポーツ大会等を活かして地域をもっと盛り上げる

- (1) 絆を深める
- (2) 裾野を広げる
- (3) 快適な環境をつくる

2 「極上のスポーツフィールド・東三河」のイメージを拡散する

- (1) 豊かなスポーツ環境を活かしたスポーツツーリズムの推進
- (2) 情報拡散に向けた仕掛け

2 目標

(1) 目標設定の考え方

- 住民が様々な形でスポーツを楽しむ機会を創出するため、「26 プラン」同様、本プランにおいても、引き続きスポーツ大会の参加者、観客数の増加に向けた取組に力を入れていく。このため、「26 プラン」の目標のうち、スポーツ大会の参加者数と観客数については、引き続き目標に掲げる。
- さらに、本プランでは、スポーツを「ささえる人」にも着目し、取組に力を入れていく。スポーツ大会では、多くのボランティアがその運営を支えており、こうしたボランティアの活躍が大会を盛り上げ、選手や観客のリピーターを増やすことに大きく寄与していることから、地域が一体となって大会運営を支える指標として、スポーツ大会のボランティア数を目標に掲げることとする。

(2) 目標

目標1 スポーツ大会の参加者数

現状の参加者数 30 千人を地域全体で約 10%増加し、33 千人を目指す。



※平成 29 年開催の大会または今後の新規立上げの大会のうち、参加者が 500 人以上のもの

目標2 スポーツ大会の観客数

現状の観客数 172 千人を地域全体で約 5%増加し、180 千人を目指す。



※「三遠ネオフェニックス」は、B リーグ 2016-17 シーズン (H28.9~H29.5) のうち、東三河地域で開催されたホームゲームの観客数。その他は、平成 29 年開催の大会または今後の新規立上げの大会のうち、観客数が 1,000 人以上で公表されているもの。

目標3 スポーツ大会のボランティア数

現状のボランティア数 7 千人を地域全体で約 10%増加し、8 千人を目指す。



※目標 1、2 で対象とした大会のうち、ボランティア数を集計しているもの。

IV 主な取組内容

1 世界・全国レベルのスポーツ大会等を活かして地域をもっと盛り上げる

(1) 絆を深める

- 世界・全国レベルのスポーツ大会等を中心に、**スポーツを「する人」「みる人」「ささえる人」が触れ合う機会を創出**することで、スポーツ大会等の新たな魅力を引き出すことが期待できる。主催者側が選手と観客等が触れあう機会を積極的に提供することに加え、**ボランティアによる大会運営のサポート**など地域が一体となって大会運営を支えることで、大会ブランド力の向上をはかるとともに、支える人達が暮らす地域の活力向上にもつなげる。
- **世界・全国レベルのスポーツ大会の誘致、開催**に取り組むことで、より多くの人達が参加できる環境をつくる。
- 地域の宿泊可能な施設を活用した**合宿の誘致、宿泊のあっせん**に取り組み、これまでよりも長時間、選手に滞在してもらうことにより、さらなる効果が期待できる。

〔工程表〕

取組内容	主な取組主体	実施年度		
		H30	H31	H32
①スポーツを「する人」「みる人」「ささえる人」が触れあう機会の創出				
三遠ネオフェニックスの選手によるスポーツ教室	市町村	→		
トップレベルの競技者や指導者によるスポーツ教室	県、市町村	→		
市民大会への有力選手の招待	市町村	→		
三遠ネオフェニックススクール生の合宿。合宿にあわせ地元の小中学生と交流	市町村	→		
奥三河地域での自転車（ロードレース）競技の普及啓発	民間事業者、県、市町村、観光関係団体、（一社）奥三河ビジョンフォーラム	→		
②ボランティアによる大会運営のサポート				
シティマラソンでのボランティア活動の支援	市町村	→		
ボランティアによるエイドステーションの運営支援	県、市町村	→		
③世界・全国レベルのスポーツ大会の誘致、開催				
全日本学生フェンシング王座決定戦の誘致	市町村	→		
サーフィン世界大会の誘致、開催	県、市町村	→		
スポーツ雪合戦大会の誘致、開催	市町村	→		
アイスホッケーアジアリーグの試合誘致	市町村	→		
フルマラソン大会の開催に向けた検討	市町村	→		
④合宿の誘致、宿泊のあっせん				
ラグビーワールドカップ及び東京オリンピック開催に伴う事前合宿誘致活動	市町村	→		
「トレラン応援の宿」の募集と情報発信	県、市町村	→		
合宿施設情報の発信、合宿宿泊費助成等による大学等のスポーツ合宿や大会の誘致	県、市町村	→		

【参考】 スポーツ合宿の誘致・実施状況

スポーツの練習や大会参加を目的とした合宿は、経済効果のみならず、地域の人々との交流や、観光の機会につながることから、スポーツを活かしたまちづくりにおける重要な取組である。

プラン策定に当たって、スポーツ合宿への対応や誘致の状況を調査したところ、以下のとおり、積極的な誘致を展開している事例が多く見られた。

さらなる誘致に向けては、質の高い競技施設、宿泊環境、公的助成制度の創設など、利用者に対し、何らかのインセンティブとなる条件を分かりやすく提示し、効果的にPRすることが必要となる。

団体名	実施状況
豊橋市	ラグビーワールドカップ及び東京オリンピック・パラリンピック開催に伴う事前合宿（フェンシング、バスケットボール等）の誘致活動
豊川市	サッカーの競技団体が合宿利用（水準の高いサッカーグラウンドが3面あるため） バドミントンや陸上競技も合宿利用
蒲郡市	夏・冬・春休みに県内外の高校・大学が合宿利用 蒲郡市観光協会 MICE 助成制度による補助金交付（蒲郡市観光協会）
新城市	若者滞在型まちづくり活動支援事業補助金により、若者が団体の活動計画に基づき、自己の体力又は学力向上のために、市の区域内に宿泊して行うスポーツ及び学習活動を支援
田原市	平成28年8月から「田原市合宿宿泊費助成制度」を創設。 28年度は53団体、延べ4,640泊が利用（関西方面の大学による利用が多い）
設楽町	奥三河総合センター（県施設）を合宿利用
東栄町	三遠ネオフェニックススクール生が合宿利用（合宿に合わせ地元の小学生と交流会を開催）
豊根村	大学の弓道部が合宿利用（射程65mの遠的施設など、施設が充実）

(2) 裾野を広げる

- スポーツ大会等を積極的に楽しむ人を増やすため、**大規模スポーツ大会の誘致・開催**に取り組むとともに、**地域で連携して大会開催をPR**する。特に、パブリックビューイング、インターネットを活用したライブ情報の提供など、大会に関する情報の露出を増やす。
- スポーツには様々な楽しみ方がある。スポーツ観戦を文化として定着させ、裾野を広げるためには、楽しみ方自体についても**SNSにより情報発信**していく必要がある。情報発信に当たっては、この点に十分留意するとともに、スポーツを通じて対話が発生するような仕掛けも考えていく。
- 地域外からの出場者、観戦者に観戦等に合わせて観光地を巡っていただく**スポーツツーリズムを推進**していく。

〔工程表〕

取組内容	主な取組主体	実施年度		
		H30	H31	H32
①大規模スポーツ大会の誘致・開催				
子供たちへの観戦機会の創出	市町村	→		
パブリックビューイングの実施	市町村	→		
②地域で連携して大会開催をPR				
「スポーツカレンダー」による情報発信	県、市町村、東三河 広域観光協議会	→		
地域外でのPRイベントの開催	県、市町村	→		
③SNSによる情報発信				
ユーチューバー、インスタグラマーの活用	県、市町村	→		
④スポーツツーリズムの推進				
地域外からの出場者、観戦者への観光情報の発信、 観光ツアーの検討	県、市町村	→		

(3) 快適な環境をつくる

- **競技施設の整備**にとどまらず、**観戦者に快適な設備の導入等**を進める。
- 観戦を通じて人の交流の輪が広がることは、スポーツの最も大切な効果の一つであることから、情報発信を通じて、**スポーツ観戦を通じたコミュニティづくりを応援**する環境を整える。

〔工程表〕

取組内容	主な取組主体	実施年度		
		H30	H31	H32
①競技施設の整備				
陸上競技場の改築	市町村	→		
スポーツ公園の整備	市町村	→		
体育館の建設	市町村	→		
②観戦者に快適な設備の導入				
大会会場への大型ビジョンの設置等	県、市町村	→		
③スポーツ観戦を通じたコミュニティづくりを応援				
SNSを活用し、話題を積極的に提供	県	→		

2 「極上のスポーツフィールド・東三河」のイメージを拡散する

(1) 豊かなスポーツ環境を活かしたスポーツツーリズムの推進

- 気軽に体験できる**スポーツを観光資源として積極的に活用**することで、地域が連携して魅力を向上させ、集客を増やす。
- また、スポーツ大会等により創出される新たな人の流れは、新たな経済活動を誘発し、経済波及効果を生み出す。**経済効果の明確化**により、地域の観光事業者を巻き込み取組を拡大することも期待できる。
- スポーツ大会等自体の発信力を活かし、**参加者や観戦者への地域PR**にも取り組む。

〔工程表〕

取組内容	主な取組主体	実施年度		
		H30	H31	H32
①スポーツを観光資源として積極的に活用				
地域外からの出場者、観戦者への観光情報発信、観光ツアーの検討	県、市町村	→		
②経済効果の明確化				
スポーツ大会等の開催による経済波及効果を算出	県	→		
③参加者や観戦者への地域PR				
大会会場での東三河PR	県、市町村	→		

(2) 情報拡散に向けた仕掛け

- **地域で連携して大会開催をPR**するとともに、スポーツを楽しみながら暮らせる環境を**東三河の暮らしやすさとして発信**する。

〔工程表〕

取組内容	主な取組主体	実施年度		
		H30	H31	H32
①地域で連携して大会開催をPR				
スポーツカレンダーによる情報発信	県、市町村、東三河広域観光協議会	→		
②東三河の暮らしやすさの発信				
SNS等を活用した情報発信	県、市町村	→		
多様なスポーツ（サーフィン、セーリング、カヌー、ロッククライミング、サイクリング、ランニング等）を楽しみながら暮らせる地域の魅力発信	県、市町村	→		

V 推進体制等について

1 推進体制

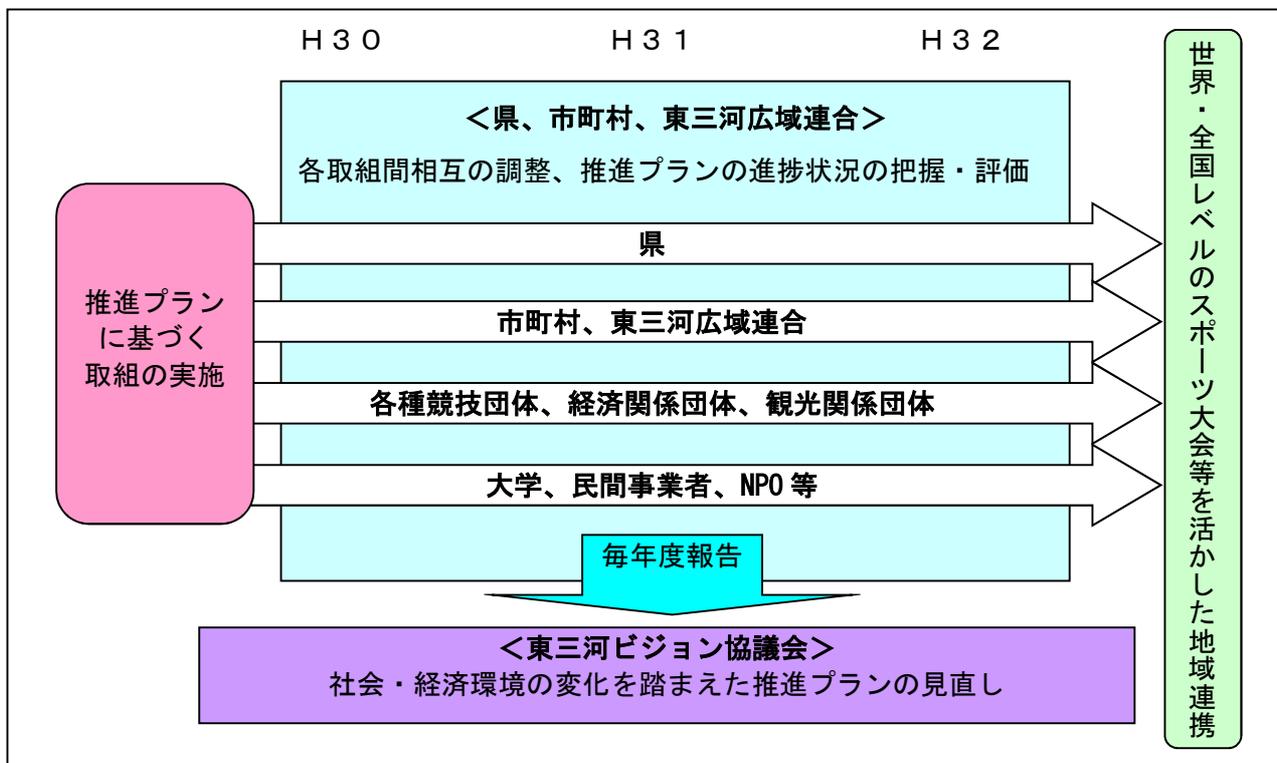
工程表に明記した各主体がそれぞれの取組を着実に推進していく。

2 推進プランの進捗状況の把握及び見直しについて

県、市町村、及び東三河広域連合が関係団体と連携・協力しながら、毎年度、推進プランに基づいて実施する取組の進捗状況の把握及び評価を実施し、東三河ビジョン協議会へ報告していく。

東三河ビジョン協議会においては、社会・経済環境の変化を踏まえて随時ローリングを行うなど、推進プランを柔軟に見直していく。

【推進イメージ】



1 東三河スポーツツーリズム検討事業（愛知県事業）

東三河地域では、奥三河や三河湾の豊かな自然環境などを活かし、特色あるスポーツ大会が数多く開催されている。

これらスポーツ大会の参加者や観戦者に対し、スポーツ大会前後の東三河の楽しみ方を発信するとともに、各種大会等のPRを図ることを目的に「東三河スポーツツーリズム検討事業」を実施した。

【事業内容】

- ・若者を中心にSNS上で大きな影響力を持つインフルエンサーを起用。東三河で開催されるスポーツ大会と開催地周辺の観光資源を結びつけたスポーツツーリズムの魅力をInstagramで紹介した。（「#エリア103」で検索可能。2,033件の「いいね！」（平成30年3月13日現在））
- ・プロバスケットボールB1リーグのアウェイチームファン向けの宿泊型観光ツアーを企画し、三遠ネオフェニックスのホームゲーム観戦の前後で東三河の観光地を巡るバスツアーを開催した。

【#エリア103 記事のテーマ】

- ①プロバスケットボールのまち（豊橋市・豊川市）
- ②セーリングのまち（蒲郡市）
- ③ラリーのまち（新城市）
- ④トレイルランニングのまち（新城市・設楽町・東栄町・豊根村）
- ⑤サーフィンのまち（豊橋市・田原市）

【観戦ツアーの実施状況】

- ・開催日：平成30年1月27日（土）、28日（日）
- ・参加者数：20名
- ・内容：試合観戦前にイチゴ狩り体験、試合観戦後に豊橋駅周辺散策（27日）
：試合観戦前にのんほいパーク滞在（28日）



VII 参考資料

1 策定経緯

(1) 平成 29 年度の東三河ビジョン協議会等の開催状況

年 月 日	主な内容
H29. 5. 30	第 1 回 東三河ビジョン協議会 企画委員会 （以下「企画委員会」） ・平成 29 年度主要プロジェクト推進プラン『人が輝き活躍する東三河』の実現、「世界・全国レベルのスポーツ大会等を活かした地域連携」の骨子（案）について
H29. 6. 6	第 1 回 ワーキンググループ ・「世界・全国レベルのスポーツ大会等を活かした地域連携」の骨子案に対する意見
H29. 6. 26	第 2 回 企画委員会 ・東三河振興ビジョン 平成 28 年度の進捗状況について ・東三河振興ビジョン 主要プロジェクト推進プラン 平成 28 年度の成果と主な取組状況 ・平成 29 年度主要プロジェクト推進プラン（『人が輝き活躍する東三河』の実現、「世界・全国レベルのスポーツ大会等を活かした地域連携」）の骨子案について
H29. 8. 7	第 1 回 東三河ビジョン協議会 ・東三河振興ビジョン及び主要プロジェクト推進プラン 平成 28 年度の進捗状況及び主な取組状況について ・平成 29 年度主要プロジェクト推進プラン骨子案について テーマ①「人が輝き活躍する東三河」の実現 テーマ② 世界・全国レベルのスポーツ大会等を活かした地域連携
H29. 11. 20	第 3 回 企画委員会 ・平成 29 年度主要プロジェクト推進プランの中間とりまとめ(案)について
H29. 12. 25	第 2 回 東三河ビジョン協議会 ・平成 29 年度主要プロジェクト推進プランの中間とりまとめ(案)について
H30. 1. 25～ 2. 23	パブリックコメント ・東三河振興ビジョン「主要プロジェクト推進プラン」中間とりまとめに対する意見の募集
H30. 2. 27	第 4 回 企画委員会 ・県民意見募集の結果について ・平成 29 年度主要プロジェクト推進プランの最終とりまとめについて ・平成 30 年度主要プロジェクト推進プランのテーマ候補について
H30. 3. 20	第 5 回 企画委員会 ・平成 29 年度主要プロジェクト推進プラン(案)について ・平成 30 年度主要プロジェクト推進プランのテーマ(案)について
H30. 3. 29	第 3 回 東三河ビジョン協議会 ・平成 29 年度主要プロジェクト推進プラン(案)について ・平成 30 年度主要プロジェクト推進プランのテーマ(案)について

(2) パブリックコメント

推進プランの中間とりまとめに対する意見の募集(パブリックコメント)を実施

募集期間	平成 30 年 1 月 25 日から平成 30 年 2 月 23 日まで
意見募集の周知方法	県政記者クラブ・豊橋市政記者クラブへの記者発表 愛知県等のホームページへの掲載 東三河県庁（東三河総局）・東三河 8 市町村・東三河広域連合等での 閲覧
意見募集の結果	意見の提出者数：4 人 意見の件数：12 件

